

2024年1月25日

各支部執行部 御中  
組合員各位

日清製粉労働組合  
中央執行部

書式変更: 文字の倍率: 100%, 文字間隔広く 0.2 pt

書式変更: 文字の倍率: 100%, 文字間隔狭く 0.6 pt

## 第70期 第6回中央執行委員会 報告



日時 : 2024年1月17日(水)9:30から1月18日(木)17:30まで  
場所 : Teams 開催(赤木、松尾、松本、島津、西村、荒井、武井、佐々木)

### <第6回中央執行委員会 議題>

#### [討議事項]

- 2024春闘要求関連
- 春闘前段オルグ準備
- フード連合第22回中央委員会議案書審議
- 会社申入れへの対応(転勤忌避退職防止施策の件、グループ一括採用実施に伴う一時金係数適用会社見直しの件)
- その他

#### [報告事項]

- フード連合関連
- その他

#### [討議事項]

### 1 2024春闘要求関連

#### (1)賃金引上げ(ベア)要求

日清労組の「基本的な考え方」である「生涯賃金の基盤としての重要性が高いと認識した上で、物価上昇への対応、生活水準の維持、当社の労働条件の優位性の確保との観点から、要求から妥結まで世間動向を十分に見極めて決定すべき」に基づき、要求案を決定した。

#### <要求案>

2024春闘において、グループ本社、製粉、ウェルナ、エンジニアリング、ファルマ(以下、5社)に対して、各社組合員の新基準内賃金を平均11,000円引き上げる(定額加算金を全学齢一律に引き上げる)要求を行う。

※日清製粉デリカフロンティアは、グループ本社に準じて対応する。

### ①物価

- ◆ 2023年度の消費者物価指数は2.8%上昇の見通し。
- ◆ 足元では上昇に落ち着きが見られているが、昨年度からの物価上昇は継続している。

### ②生活水準

- ◆ コスト上昇による商品への価格転嫁が進んだこともあり、物価上昇は昨年度から継続して上昇しており、家計に影響を与えている。
- ◆ 2023 春闘以降後も実質賃金は物価上昇に追いつかずマイナスで推移し、11 月時点で 20 カ月連続のマイナスが続いている。
- ◆ 但し、電気代など一部値下がりしている部分もあり、足元での物価上昇は落ち着きを見せている。

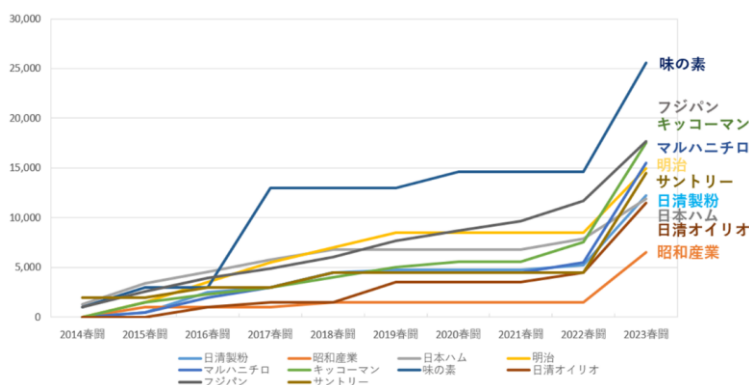
### ③優位性

- ◆ 2023春闘における連合の賃上げ回答額（定昇込み総額）の最終集計結果は 10,560 円（前年差+4,556 円）と前年を大きく上回った。
- ◆ 2023春闘におけるフード連合の賃上げ回答額（平均賃金方式・総額加重平均）の収拾結果も 11,199 円（前年差+5,064 円）と前年を大きく上回った。昨年は日清労組も 7,000 円のベアを獲得しており、これに定期昇給を加えると連合、フード連合の加重平均を上回っているが、優位性が大きく高まったとは言えない状況にある（図表1）。
- ◆ 一方で、日清労組組合員の賃金データ（2023年4月1日時点）に基づいて把握した実態賃金は、フード連合「賃金ビジョン」の各水準との比較では、大卒区分は多くのポイントで目標水準を達成した一方、高卒区分で見るとまだ「到達水準（集計データの中央値）」以上「目標水準（集計データの上位 25%の平均値）」未滿に留まっている（「別紙」2024 春闘 賃金カーブ比較）。
- ◆ また、日清労組は 2015~2023春闘で12,250 円のベア・賃金改善（一昨年の PCI ~Ⅲへの 4,000 円は含まない）を積み重ねてきたが、2014~2023春闘の期間で見ると、当社以上にベアを積み重ねてきた大手単組も多く、相対的な優位性が確保されているとも言切れない（図表2）。
- ◆ このような中、連合やフード連合は「すべての組合が昨年以上の賃上げに取り組む」との方針を強く押し出しており、昨年よりも他労組での要求額が高くなる傾向にあると考えられる。

図表 1 フード連合主要単組 2023 春闘 ベア要求・回答状況

単組名	要求額	回答額
日清製粉	ベア 9,000円	ベア 7,000円
ニッポン	ベア 9,000円	賃金改善 9,000円
昭和産業	要求なし	ベア 5,000~7,000円
日東富士製粉	ベア 9,000円	ベア 9,000円
味の素	ベア 13,000円	ベア 11,000円
日清オイリオ	ベア 10,000円	ベア 7,000円
キッコーマン	ベア 9,000円	ベア 10,000円
NAC（日本水産）	ベア 9,000円	ベア 7,500円
全森永	定昇含め 14,031円	ベア 5,401円
明治	ベア 9,000円	ベア 6,500円
麒麟ビール	ベア 10,000円	ベア 10,000円
サントリー	ベア 10,000円	ベア 10,000円

図表 2 フード連合主要単組 2014~2023 春闘 ベア回答積上げ結果



注:「ベア」だけでなく、賃金表の一律の引上げではない「賃金改善」も含む  
(ただし、単年度限りの「賃金改善」等は除外)

#### ④世間動向(政労使の動向)

- ◆ 岸田首相は「政労使会議」において、デフレ完全脱却に向けて、足元の物価動向を踏まえ、2023 春闘を上回る水準での賃上げについて、労使で議論するよう要請した。
- ◆ 労働界では、連合が「国際的に見劣りする日本の賃金水準を中期的に引き上げる」という考えのもと、「賃上げ分3%以上、定昇を含め5%以上」を目安とする方針を示している。これを受けて、フード連合も「賃金引き上げの流れをさらに強く加速させていく」観点から、「10,000 円以上」のベースアップ要求水準としている。
- ◆ 経済界でも、経団連は2023 春闘に引き続き、「構造的な賃上げ」の実現に貢献することが社会的責務と述べている。また、十倉雅和会長は、デフレから脱却するために官民連携で取り組み、2023 年以上の賃上げ水準を目指すことを会見でも話している。

#### ⑤要求可否の判断

- ◆ ①物価②生活水準③優位性のすべての観点で要求根拠が整っていると認識している。また報道でもあるように他社では若手社員に重点を置いた賃上げの動きもみられているこ

とは注視する必要がある。

- ◆ 政府の方針や労働界、経済界の動きも踏まえ、製粉最大手の単組としての役割と責任を果たすとともに、日清製粉グループで働く組合員の生活水準の維持・向上、労働条件の優位性の確保を図るために、今春闘はベア要求を掲げなければならないと判断した。

#### ⑥各社の要求可否

- ◆ 日清労組は各社のベア要求可否について、各社の短期的な業績の好不調を判断基準としていない。あくまで、「各社の経営環境に関して、ベア要求を断念せざるを得ない理由があるか」という観点で判断している。
- ◆ 取り巻く経営環境は各社で異なり、いずれも厳しい市場競争にさらされているが、ベアを行うと経営基盤が危ぶまれるほどの状況ではなく、ベア要求を断念する理由は見当たらないことから、5社すべてに要求することとする。

#### ⑦要求金額

- ◆ 要求金額については「賃金には社会性がある」とのスタンスに立ち、上部団体の方針や過去の交渉内容等を踏まえて多面的に検討を行った。
- ◆ フード連合はベア要求について定期昇給制度が確立している会社については「10,000円以上」を掲げている。
- ◆ 次に、過去の交渉内容について確認した。日清労組は2014春闘で1,000円、2015～2020、2022春闘で3,000円、2023春闘では9,000円のベア要求を掲げてきた(図表3)。

(※)2015春闘におけるベア要求3,000円の根拠

- ①日清労組組合員の平均基準内賃金が概ね300,000円であり、過年度物価上昇率(消費税増税の影響を除く)が1.0～1.2%であったこと。
- ②日清労組組合員の標準者モデルの定昇額が平均8,000円を超えており、フード連合が掲げる総額要求の目安12,000円にも概ね沿っていること。

図表3 日清労組 2014～2023春闘 ベア要求・回答状況

春闘	組合要求	会社回答
2014	ベア1,000円 ※加給係数の引上げ	ベア0円 ※定昇のみ
2015	ベア3,000円 ※加給係数の引上げ	<b>特定手当 組合員平均500円</b> (学齢別内訳) 25～29歳：750円 30～34歳：1,250円 35～39歳：500円 40～44歳：250円
2016	ベア3,000円	<b>ベア2,000円</b>

	※加給係数の引上げ	※加給係数の引上げ
2017	ベア 3,000 円 ※加給係数の引上げ	①ベア 500 円 ※定額加算金の新設 ②特定手当の加給への繰り入れ（学齢別定額加算金に繰り入れた上で、特定手当を廃止）
2018	ベア 3,000 円 ※定額加算金の引上げ	①ベア 1,500 円 ※定額加算金の引上げ ②学齢 25～34 歳の組合員平均基準内賃金 + 500 円（定額加算金の引上げ）
2019	ベア 3,000 円 ※定額加算金の引上げ	ベア 250 円 ※定額加算金の引上げ
2020	ベア 3,000 円 ※定額加算金の引上げ	ベア 0 円 ※定昇のみ
2021	ベア要求見送り	—
2022	ベア 3,000 円 ※定額加算金の引上げ	①ベア 500 円 ※定額加算金の引上げ ②PC I～IIIの基準内賃金+4000 円 （定額加算金の引上げ）
2023	ベア 9,000 円 ※定額加算金の引上げ	ベア 7,000 円

- ◆ ベアの要求金額は前年度の妥結実績（月数）を起点とする一時金要求とは「考え方」や「組み方」が根本的に異なるため、昨年までの要求額はあくまで参考に留める。
- ◆ 日清労組としては、「賃金の社会性」や「上部団体の方針」などを踏まえて要求金額を決定する必要がある。フード連合は「経済の自律的成長」「食品関連産業で働く労働者の相対的地位の向上」に向けて、産業相場を引き上げるとともに、賃上げの流れを継続させる観点から、要求水準を設定している。
- ◆ 物価上昇率は落ち着きを見せ始めているものの、昨年度から継続しているインフレは組合員の生活を圧迫しており、2023 年度の消費者物価指数が 2.8%増となる見込みであることは強く意識する必要がある。
- ◆ この物価上昇率に加えて、優位性の観点で、本年度は全体として上部団体方針に従う労組が多いと考えられることから、本年については上部団体方針も意識しなければならない。
- ◆ まず、物価上昇率も意識された上で策定されている、フード連合方針に則った 10,000 円を掲げることを検討した。  
 一方で連合の掲げるベア 3%、定昇込み 5%の水準とも比較すると、当社の定昇率は約 1.9%であるため、定昇込み5%の水準を考えると3.1%のベアが必要となる。組合員平均賃金は約 335,000 円であることから、3.1%の水準は 10,385 円となり、優位性の維持・確保を考え、これを超える水準を要求する必要があると判断した。
- ◆ 物価上昇をカバーしつつ、フード連合及び連合の方針を踏まえ、日清労組が組織一丸となって春闘に臨むことができる要求金額として、11,000 円を掲げる。

## ⑧要求方法

- ◆ 日清労組のベアの要求方法には「加給係数の引上げ」と「定額加算金の引上げ」の2つの選択肢がある。
- ◆ 「加給係数の引上げ」は、組合員一人ひとり異なる「本給(=本人給+職能給)」に乗じる「係数」を組合員一律に引き上げる方法であって、若年層よりも本給が高い高年齢層の方にベアの原資が厚く配分されるため、年功要素が拡大する。
- ◆ 一方、「定額加算金の引上げ」は学齢毎の金額設定が可能であることから、「全学齢一律(同額)の金額」または「学齢毎に異なる金額」を要求として掲げることができるため、必ずしも年功要素は拡大しない。
- ◆ 組合は過去に賃金専門委員会の中で、当時の課題意識として、40歳以降の昇給額が少ないことや中高年層の水準是正が必要という課題があった。そこで中労委が発表している賃金カーブとの比較で分析し、加給係数でカーブを是正して中労委モデルのカーブを目指していたという経緯がある。現在ではその傾きが是正され、中労委モデルのカーブとそん色ない形となっている。
- ◆ これらを踏まえると、賃金カーブを形成する加給係数は今の所是正の必要はなく全体のカーブの底上げが重要と考える。
- ◆ そこで、「全学齢一律の金額」を設定した「定額加算金の引上げ」によるベアを行い、当社の賃金体系の全体的な底上げを行うことで生活水準の維持、向上、優位性の確保を目指していくべきと考えた。

#### ⑨最後に

- ◆ 2024春闘も厳しい交渉になると想定される。組合としての要求根拠をくまなく主張したうえで、長期ビジョン「NNI “Compass for the Future”」や中期経営計画等の会社施策に対する組合員一人ひとりの貢献、生産性向上等の頑張りを昨年以上に訴えながら、要求への強い想いを会社にぶつけていくことが不可欠と考える。支部からも力強い支援をお願いしたい。

#### (2)一時金要求

日清労組の「基本的な考え方」である「生活給的側面はあるものの、現実的には業績反映要素も加味されていることを十分考慮した上で決定すべき」に基づいて検討した。

今中央執行委員会では、11月の労使協議会の内容と第2四半期決算時点での通期業績見通しをもとに、各社の一時金要求水準について考察している。

一時金要求案については第3四半期決算発表後、1月30日～2月2日開催予定の第7回中央執行委員会において検討を行い、各社ごとに決定する。

#### (3)諸要求について

2024春闘では諸要求は行わないこととする。

## 2 春闘前段オルグ準備

春闘前段オルグに向けて、スケジュールや訪問する中執、運営方法について確認を行った。

オルグでは、我々を取り巻く環境や世間情勢、要求案を作成するまでのプロセス、具体的な要求案などを詳細に説明した上で、質疑の時間も十分に確保したいと考えている。支部の対応もご苦労があるかと思うが、本部と支部で連携して春闘へ向けて気運を高め、意思統一を図っていく場とするべく、ご協力願いたい。

なお、オルグの開催期間は2月5日～16日としており、事前に各支部の意向を確認した上で、今中央執行委員会で日程調整を行っている。支部別の日程や訪問する中執については Teams を通じて情報共有するので、ご確認願いたい。

なお、オルグに参加できない組合員にも本部の考えが伝わるよう、前年と同様に「動画配信」をオルグと並行して実施する予定である。

### 3 フード連合第22回中央委員会議案書審議

1月29日に開催されるフード連合第22回中央委員会の議案書審議を行い、日清労組としては経過報告ならびに全議案について賛成することとした。なお、中央委員会には代議員として赤木委員長、松本副委員長が出席する予定である。

### 4 会社申入れへの対応(転勤忌避退職防止施策の件、グループ一括採用実施に伴う一時金係数適用会社見直しの件)

2023年12月14日(木)に申入れが行われた表題の件について、支部の意見集約内容を共有し、労使協議に向けた質疑内容を確認した。

2024年1月31日に次回労使協議を行う予定としている。

#### [報告事項]

### 1 フード連合関連

#### (1) フード連合 製粉部会 第1回常任委員会

日時:2023年12月19日(火) 場所:東京都内

フード連合製粉部会の第1回常任委員会が開催され、春季生活闘争方針、フード連合の産業政策ならびに部会政策について、議論を行った。当労組からは赤木委員長、島津書記長が出席した。

#### (2) フード連合 2024春闘共闘推進集会

日時:2023年12月22日(金) 場所:東京都内とWEB併用

2024春闘におけるフード連合の闘争方針(案)および連合方針・社会情勢等について、組織内への理解・浸透を図り、共闘体制の強化につなげるため、また加盟単組間での情報交換・意識共有を行うことで、単組内での要求策定議論や交渉戦略の材料収集に寄与するために意見交換を行った。当労組からは赤木委員長が出席した。

### 2 その他

特になし。

[今後のスケジュール]

1/28	フード連合製粉部会全国会議
1/29	フード連合中央委員会
1/30-2/2	第7回中央執行委員会
1/31	第1回協議(転勤忌避退職防止施策の件、グループ一括採用実施に伴う一時金係数適用会社見直しの件)
2/5	中間会計監査
2/5-16	春闘前段オルグ
2/9	日清製粉健康保険組合 理事会
2/13-22	職場討議
2/9	臨時大会議案書 支部到着予定
2/16	日清製粉健康保険組合 組合会
2/26	臨時大会準備会議/臨時大会

以上